

「情報基礎」現状と課題

教養部 横田 浩

1. はじめに

情報関連科目の改定に伴い、全学生が卒業までに単位を取得しなければならない科目として「情報基礎」が開設されてから、4年目に入った。そこで、「情報基礎」の現状を報告するとともに、問題点や今後の課題について検討する。

「情報基礎」は、一通りコンピュータ（パソコンというべきか）の操作ができる学生を対象として、情報社会で必要となると思われる

インターネットの簡単な説明と電子メールの実習（電子メールによる出席確認）

情報倫理に関する講義およびパスワードの変更（実習）

を行う科目である。詳細は、「講義要綱（シラバス）」（今年度のものを、付録に掲載する）を参照して頂きたい。

効果も上がってきていると思われるが、問題点も多く出てきている。例えば、

- ① インターネット（電子メールや Web）ができる携帯電話の急激な普及によるパソコンを用いたインターネットの実習とのギャップ
- ② 実習に時間を割かれるため、情報倫理関係の説明時間が不足する

などである。

したがって、来年度からの高校における「情報」科目開設を考えると、カリキュラムの見直しの時期にきているといえる。

2. 「情報基礎」の現状と問題点

ここでは、「情報基礎」の現状と問題点について報告する。現在、3名の専任教員が担当している。基本的な内容については、同じではあるが、詳細にみれば各教員で異なる部分もある。また、評価も教員による大きな差がでないように、相談をしている。本稿では、原則として筆者の授業での現状を報告するが、全体に共通することも多いと思う。

2-1 出席および単位取得の状況

内容に入る前に、出席および単位取得の状況をまとめる。先にも述べたとおり、必須科目であるため、全学生が必ず単位を取得しなければならない。実習を伴う科目であるため、出席は重要である。授業時間の2/3以上の出席がなければ、自動的に「不足」になる。現在、授業を登録して単位が取得できない学生（受講生の1割程度）のほとんどが、この出席不足によるものである。授業をきちんと受け、試験を受けながら単位が取れない、す

なわち、「不可(60点未満)」は、半期(1セメスター)の8クラス(定員560名)全体でも、10名程度である(不可のないクラスもある)。一部、試験を受けない「欠席」が、数名いる。

最後の「欠席」について、1つコメントする。「情報基礎」では、電子メールの実習に関する「実技試験」と、インターネットの基礎知識や情報倫理に関する「筆記試験」という2つの試験を行ない、総合的に評価している。どちらか一方の試験だけでは、合格はできない[注1]。両方とも受けない学生もいるが、一方しか受けない学生もまれにいる(他の教員でも同じことがあるとのこと)。初期のころは、実技試験と筆記試験の2つとも受けなければいけないというのが、きちんと理解されていなかったことによる。この経験から、授業中に何度も説明をしているにもかかわらず、毎回存在するのはなぜであろうか。単位取得をあきらめたのか、今のところ理由はわからない。

多くの学生は、1～2年生で単位を取得しているが、4年生になっても取得できていない学生も若干いる。出席重視の科目であるので、就職活動で忙しくなる4年生のときに受講すると、出席不足で単位が取得できないという事態になりかねない。ただ、4年生になって初めて受講するという学生はほとんどいないようである。以前に、取得できなかったためと思われるが、取得できない理由のほとんどが出席不足であること考えると、状況はもっと深刻かもしれない。

ここで、出席に関して、若干感じていることをコメントしておく。「情報基礎」は、機器の関係で70名が定員である。このため、時間割の関係か希望者が多く抽選を行なう必要があるクラスと希望者が定員以下で全員が受講できるクラスができる。このとき、前者のクラスは、比較的欠席や不足が少なく、後者に多い傾向が見られる。他の教員のクラスでも見られる傾向らしい。抽選をした場合、自分は選ばれたのであり、受講できなかった学生を見ているため、受講意識が高くなると考えられる。また、前期に比べて、後期のほうが、不足が多いというのは毎年の傾向である。

2-2 電子メールの実習の状況

次に、授業内容にはいる。まず、電子メール実習の状況からみる。

筆者の場合、クライアントである Windows パソコンから TELNET を用いてメールサーバを遠隔操作して、メールの送受信を行う形式を採用している。これは、2台のコンピュータを利用しているということを中心に理解することを目的としたいためである。メーラーは、一度設定してしまえば、あとは、ワープロなどと操作法は大差ない。しかし、設定が一度だけなので、全員出席していればよいが、欠席者がいると、設定してある者としていない者が混在してしまう(TELENT のときは、毎回同じ操作であるので、一回の休みは取り戻せる)。さらに、あたかもパソコンがメールの送受信をしているように感じてしまい、メールサーバの存在を忘れてしまうという問題がある。それはそれで良いのでは

という意見もあるかもしれないが、プロバイダやメーラーを変更したときに、自分で設定ができないという問題が生ずる。携帯電話のように、既に設定済みで変更しないのであれば、それでもよいかもしれないが、パソコンの場合は問題ではないかと思う。この携帯電話とパソコンの差が、ほとんどの学生がメール機能のある携帯電話を持っているにもかかわらず[注2]、メールサーバの概念を理解することを難しくしていると考えられる。

その上、情報倫理ともからむが、パスワードの変更は一般にメーラーからは出来ないの
で TELNET で接続し、UNIX 上で行なう必要がある。そのためにも、現状では上記の方法がよいと考えている。

実習における差が大きいという問題もある[注3]。Window 操作（マウス操作を含む）や日本語入力ができる学生が受講しているはずであるが、操作技術に大きな差がでてい
る。このため、出席をとるための電子メールの実習では、直ぐに終る学生は、なかなか送れない
学生が終るまで何もすることがなく待っているという状況が生じている[注4]。TEL
NET で遠隔操作し、UNIX の命令を実行することになれていないためと思われる。ほと
んどのことが、マウスをクリックするだけでできてしまう Window 操作になれているため、
命令をキーボードから一々入力しなければならない、UNIX はわずらわしいのかもしれない。
しかし、文章は、キーボードを利用するのであるから、同じであると思うのだが。もし
かししたら、携帯電話での文字入力の方法になれてしまい、キーボードによる文字入力さ
え、難しいのかしれない。

操作技術の差に関することは、「情報基礎」に限らないが、高校での情報科目の授業内
容によっては、さらに深刻になる問題であると思う。

以上では、電子メールの実習にのみ焦点を当てた。実習として行っているのは、電子メ
ールとパスワードの変更だけである。あと、メーラーの設定についてはプロジェクタを用い
て紹介する程度である。また、ホームページについては、本学と図書館の Web サーバを
用いた、ごく簡単な実習である。学外は、プロジェクタのみである。これ以上の内容を（今
の科目の中で）行う必要があるかどうか疑問を持っている。そのための時間（1コマ分）が、
保証されれば充分であると思う。

2-3 情報倫理

最後に、情報倫理に関する状況をみる。情報倫理関係のテキストは

情報教育研究会・情報倫理教育研究グループ編

『インターネットの光と影 被害者・加害者にならないための情報倫理入門』

である。各項目が2～3ページにまとめられていて便利である。ただ、内容が多いため、
全てを授業内で説明するには無理がある。授業では、主として影の部分を選んで、講義を
している。来年度からは、以下のテキストに変更の予定である。

「インターネット社会を生きるための情報倫理」

情報教育学研究会 (IEC)・情報倫理教育研究グループ著／実教出版株式会社

これは、現在のテキストの筆者達が、内容をコンパクトにまとめたものであり、マンガも使用されていてわかりやすい（もしかしたら、高校の副教材かもしれないが）。

ただ、時間不足は解決しない。先に述べた、出席確認の電子メールの実習に時間を割かれるために、講義をしている時間が充分にとれないためである。さらに、情報倫理に絡んで、本学園の規程[注5]もかいつまんで説明しているが、これも時間が足りなくなっており、「あとは、読んでおくように」となってしまい残念である。

情報倫理にからんで、パスワードの重要性を説明したあと、Windowsの各自アカウントのパスワードを変更している。メールサーバについては、授業時のみの使用であるので、変更はしていない。これに関連して、

1. 本来の意味を理解せず、使用する文字や字数などの注意を守っていないようなパスワードがある（Windowsのパスワードの設定が甘くなっているため、どんなものでも受けつけてしまう）[注6]。
2. クライアントであるパソコン（Windows）のパスワードの変更であるにもかかわらず、メールサーバも変更されていると思い、メールサーバに接続できないと質問する学生がいる。

などの問題がある。後者は、2台の別のコンピュータを利用していることが、きちんと理解されていないことを示している。携帯電話では、一般にパスワードを使用しないことも、パスワードに関する認識が充分でない原因の一つと考えるのが自然である。

さらに、個人情報としての「ユーザ名」や「メールアドレス」とセキュリティのための「パスワード」の違いを、正しく理解していない学生も多い。こちらからの「ユーザ名」や「メールアドレス」を尋ねる質問に「『個人情報』なので、教えられません」という回答も多い。これでは、相手は電子メールを送ることさえできなくなる。個人情報は取扱に注意がいるが、状況に応じて相手に伝える必要もあることを、正しく認識してもらうことが重要である。注6にも書いたが、「パスワード」の質問の副作用？かもしれない。

2-4 「情報基礎」取得後の状況

最後に、「情報基礎」単位取得後の状況についてみる。「情報基礎」を取得すると、「eメール利用講座」を受講すれば、本学のインターネットの利用アカウントを取得できることになっている。しかしながら、今年度前期の講座では、約60名程度しかおらず、単位取得者の2割にも達していない。一番の理由は、通常の使用であれば、携帯電話で充分であることと考えられる[注2]。

また、現在の大学でのインターネットは、大学に来なければ使用できない環境にある。

自宅から使用しようと思うと、一般のプロバイダと契約しなければならず、大学でアカウントをもつメリットが少ないことも原因であろう。

さらに、「講座」の内容が、理解されていないことも原因の一つであろう。内容は、新しい技術の修得ではなくメールサーバのパスワードの変更とメーラーの環境設定であり、単位を取得しておれば、簡単に済むことである[注7]。ただ、「講座」という名称から、更に「講習」というか「授業」を受けなければもらえないという感覚が学生にあると思われる。

3. 今後の課題

以上、「情報基礎」の現状と問題点を見てきた。ここでは、それらを踏まえ、今後の課題について感じていることを簡単に述べてまとめたい。

今後、高校で「情報科目」を受講してくること、通常のことならインターネットのできる携帯電話で済んでしまうことなどを考えると、現在の「情報基礎」は

- ① 操作方法に関しては、パソコンの操作の中・上級編を希望者に対して行なう。
- ② 情報倫理に関しては、講義科目とし、こちらのみ必須とする[注8]。

に、分けて実施するのが最も効果的であると思う。

ただ、中・上級の操作については、具体的内容がはっきりしない。携帯電話などでも出来るものをパソコンで行うような現在の実習内容は、実情に合わなくなりつつある。したがって、パソコン特有の操作・内容にする必要がある。しかしながら、学生の興味が多様な教養部で開講する科目の内容を決めるのは難しい。

これらを、有効にするためには、各学部との連携が重要である。教養部の情報関連科目の中だけでの変更ではなく、大学全体として、情報社会に対するための情報関連科目をどのように位置付けるのかの検討が必要な時期にきているといえる。今後、全学のカリキュラムとして、検討されることを期待する。

注

[注1] 筆者の場合では、筆記試験で満点をとると、ぎりぎり合格できる。今のところ、満点はいない。

[注2] 授業時のアンケートによると、持っていない学生は各クラス（回答数60名前後）の内1～3名程度に過ぎない。

[注3] 「情報基礎」ではないが、操作の基礎（入門）のための「コンピュータ入門」を来年度（平成15年度）から、レベル差を設けて「パソコン操作Ⅰ」（初心者向け）と「パソコン操作Ⅱ」（やや中級者向け）に分けることになった。「パソコン操作Ⅰ」を「情報基礎」を受けるための条件（免除制度は続ける）とし、「パソコン操作Ⅱ」

は、「情報基礎」と並行受講可能にする。

[注4] 速く終了した学生には、別の課題を与えておくという方法も考えられるが、ますます技術に差がつくというジレンマに陥る。いまのところ、どうしたらよいか分からない状況にある。

[注5] 「学校法人正強学園個人情報取扱規程」、「学校法人正強学園情報倫理規程」、「学校法人正強学園 ネットワーク利用に関する規則」の3つを取り上げている。

[注6] なぜ、注意を守っていないパスワードがあることがわかるのかは以下の事情による。出席確認のメールで「あなたの現在のパスワードは何ですか」という質問をすると、返事として返ってくるのである。もちろん、情報倫理上、この質問に対しては、「答えられません」・「教えられません」と答えて欲しいのであるが（前の時間に、例外なしに他人に教えてはいけないと説明している）。この時の注意で、多くの学生は、パスワードを教えなくなるので、この質問の効果は高いようである。ただ、その副作用？として、ユーザ名やメールアドレスまで答えなくなるのは、（もちろん、無制限に教えるのは問題だが）困ってしまう。参考までに、どの程度の学生がパスワードを送ってきたかを以下の表にまとめる（湊先生のクラスのデータも教えていただいた。感謝します）。平均すると53%であるが、クラスによって差があるようにもみえる。時間的に後のクラスでは、前のクラスの情報が伝わっているためかもしれないが、はっきりとしたことはわからない。

クラス	送った学生	出席学生
A	37 (60.6%)	61
B	27 (49.1%)	55
C	33 (62.3%)	53
D	23 (40.0%)	59

[注7] 言い換えれば、「情報基礎」の単位さえ取得すれば、学内のインターネットは、実質、すぐに使える環境になるといえる。パスワードの変更とメーラーの環境設定を学生各自が行うことにすれば、「eメール利用講座」も不要になるが、センター業務への影響を考えると、現状では「eメール利用講座」は必要であると思う。希望者が現在と同程度であれば、学生スタッフに一任する方法も考えられるので、今後検討すべきことかもしれない。ただ、希望者が殺到するようだと、本来の業務に支障がでるので、やはり「講座」の形式で行う必要がある。

[注8] 全員に対して必須とするかについては議論のあるところであろうが、現在、社会問題になっている住民基本台帳ネットワークをはじめとする「個人情報」やコンピュータ・ウィルスの蔓延などを考えると、必須化は必要であると思う。さらに、倫理にからむ学生の問題のある利用などからみても、強化は必要である。

付録 「情報基礎」シラバス

今年度の筆者のものであるが、他の教員も基本的に同じ内容である。

情報基礎 2単位 1・2年次

【テーマ】

情報社会で生きるために！

【概要・内容】

本科目は、現代の情報社会で活動する上で必要な最低限の知識を解説する。多くの人が、現在の情報社会には光と影があることを感じている。この影の部分に光を当て、情報社会を「秩序ある社会」にするにはどのようにすればよいか、技術的側面、法的側面、倫理的側面から考える。このことを理解した上で、現在の情報社会で重要な役割をはたしているインターネットを利用する技術を養う。

① インターネットを利用する上での基礎知識

② 主として電子メールの操作法の解説と実習

③ 情報倫理に関する講義

情報・個人情報・知的所有権・コミュニケーション(ネチケット)・セキュリティ(パスワードの変更の実習を含む)・犯罪・情報社会についてテキストに沿って解説する。また、本学の「個人情報取扱規程」等の規則についても説明する。

④ ホームページとメールツール(メーラー)の概要〈実習またはプロジェクターによる解説〉

【評価方法・基準】

筆記・実技試験及び授業中の態度と出席状態により評価する。

【テキスト】

情報教育研究会・情報倫理教育研究グループ編

『インターネットの光と影 被害者・加害者にならないための情報倫理入門』

(北大路書房)

【参考書・履修上の注意事項等】

① ローマ字で漢字の入力ができること。

② 受講するためには、コンピュータ入門またはコンピュータ基礎を修得しているか、コンピュータ入門免除願いを提出していること。

③ 毎時間電子メールを利用した出欠をとる。1/3以上欠席したものには単位を出さない。

④ 実習を伴う授業であるので、定員は70名とする。